日文 教授用資料

教育情報 No.24

Educational information

株式会社 GHIBLI 代表取締役
坪内 知佳さん

02. 美しい海、島を守るために
株式会社GHIBLI代表取締役　坪内知佳

04. 自治体の長が考える経営戦略
～弘前市の取り組み～
弘前市長　櫻田宏

06. 温故知新の精神に基づく酒造り
新政酒造株式会社
代表取締役社長　佐藤祐輔

08. 脳科学を生かした授業改善による
不登校対策の取り組み
東京都国立市立国立第二中学校
校長　黒田宏一

特集

学校経営への羅針盤

日文のWebサイト
日文

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

心が動く、その先へ。
日本文教出版

巻頭インタビュー | TVドラマ『ファーストペンギン』のモデル・坪内知佳さんへお話を伺いました。

美しい海、島を守るために

株式会社 GHIBLI 代表取締役　坪内 知佳さん

カモメになりたい！

小・中学生のころは勉強が得意でも不得意でもなく、早く大人になりたいと思っていました。おそらく静かにじっとして学ぶより、アクティブに実践的なことが好きだったからだと思います。漠然と、自分の力で海や空を越えてみたい、自然の中にどっぷり浸っていたいと想いを巡らしていました。青い海や空が大好きで、カモメが羨ましく感じていました。そこから船乗りやパイロットを連想していました。

自分の力で海の向こうへ飛んでいけるような自分になりたい、人と人とが手を取り合ってつながっていられる仕事をしたいということが根幹にあったのかもしれません。

サバかアジか？漁師をまとめる力とは

漁師の方々とかかわる前、漁業については特段、イメージはありませんでした。それぐらい自分とは遠いところの話だと思っていました。萩大島ではメインの魚であるサバとアジが見分けられないくらいでしたから……。そんな私が萩大島船団丸を率いるまでになりました。

私たちは、この事業の理念として、50 年先の島の豊かな存続と美しい刺盛文化を継承しますとうたっています。今日明日のことではなく、しかしあまり遠すぎると「そんな未来のこと知らないよ！」となってしまうので、たとえば自分の子どもが生きるであろう期間、50 年先だと自分ごととして真剣に考えられると思ったからです。自分たちが生まれ育った島をどう豊かに存続させるのかということや、もっと広げて、現在、北海道から長崎まで全国展開をしていく中でどの漁村も昨今は SDGs や海洋環境変動について考えています。

そういう少し遠い先、50 年先を「ここゴールだよ」と掲げると、北海道だから、長崎だからということは関係なく、50 年先に美しい海があって、海洋資源があって、刺盛文化があって、行き先はなんとなくこちらのほうに行ける、そういうちょっと大きめなゴール、理念をどれだけ強く打ち出してあげられるかだと思います。それをトップに立つ人間は誰よりもぶれずにクリアな言葉でみんなに伝え続け、見せ続けることが唯一大事なことだと考えています。あとは私がまとめたのではなくて、てんでんばらばら好きなように動く漁師たちがそれでもその漁村が！海が！未来が！ということをみんな守りたいと思っているから、同じほうに向かって自然と歩いてくれているのだと思います。

壁は乗り越えるためにある！

私のイメージは地球があって、私たち一人ひとりがそこで営んでいる歯車のようなニュアンスです。みんな大きさ、形状、色が違って、それぞれよいところや悪いところ、得意なところ不得意なところがあって、世の中は形成されている、今を生かされているのです。そう考えると、この船団丸の事業も何かご縁があって、ここに集って営んでいるということです。大変だし、しんどいし、朝晩逆転生活だし、他の誰かがやるのであればとっくに日本の水産の仕組みは変わっているという話です。しかしそれが戦後、法律ができたときから 70 ～ 80 年経っても変わらずに続いています。そこには理由があって、ある意味やらせていただいていると思うのです。

東日本大震災が起きたときも、東北の太平洋岸では大半の浜を失って、高濃度の放射性物質が出て、魚が思うように食べられない、漁に出られないということも、よそのどこかの人の話だから知らないではなく、私たちはそこに対してアプローチできると考えました。せっかくそういう立ち位置にいるのであれば、これは困難だから諦める、困難だから違うことをするのではなく、どうしたら一歩前に進めるのか、どうしたら越えられない壁を越えていけるのか、そればかりを考えてやってきました。そうこうしているうちに、自分たちがどこかの誰かのために役に立てたらいいよねと思ってやっていたはずが、本当にたくさんのお客様が船団丸の活動を応援したいからと言って、さまざまなサポートをしていただいています。

今後の活動・ビジョン

今後は、47 都道府県に魚のビジネスを展開している船団丸ですが、“まるごと船団丸”という野菜のブランドをつくり、海と畑の自然の循環農法では、自然との共生を追求した魚、野菜、木材の総合的なビジネスを考えています。自然にどれだけ負荷をかけずに共生していけるのかというブランド、いただいている命の対価をどれだけ高められるのかということ、自然と共生してどれだけ私たちか営利活動をして生きていけるのか長くサステナブルなものにできるのかということを追求していきたいと考えています。そして、どの県にも一県一個ずつぐらいブランドを作って、その土地で根ざしていける後継者が一県に 3、4 人いて、それが 47 都道府県に広がったとき、私はずいぶんと世の中が変わるような気がしています。そういう未来を追求していきたいです。

坪内 知佳

株式会社 GHIBLI 代表取締役。1986（昭和 61）年福井県生まれ。大学中退後、山口県萩市へ移住。2011（平成 23）年 3 月に約 60 人の漁業者をまとめ「萩大島船団丸」を設立、代表に就任。農林水産省から六次産業化の認定。アレルギーや化学物質過敏症、癌を患い、安心安全な食材の供給に従事したい想いから、2014 年 4 月に株式会社 GHIBLI として法人化。全国に船団丸ブランドを展開し、講演活動も行う。2016 年より一次産業の現場を旅できるスタディーツアー「V!V!V! 旅」や、国産の真珠ブランド「Euripides」、オンライン旅行サービス「The world alliance2021」も展開。日本政策投資銀行（第 4 回女性企業家ビジネスプランコンテスト・地域未来賞 受賞）、『日経 WOMAN』WOMAN OF THE YEAR2014 受賞、『AERA』日本を突破した 100 人、『日経ビジネス』2017 年最も影響のある「次代を創る 100 人」に選出。日本の地方創生のため勢力的な活動を続けている。（活動は Facebook/HP にて配信中）

『ファーストペンギン　シングルマザーと漁師たちが挑んだ船団丸の奇跡』坪内知佳著　講談社

自治体の長が考える経営戦略 ～弘前市の取り組み～

弘前市長
櫻田 宏

ハレとケの町・青森県弘前市

弘前市は藩政時代以来、400 年以上の歴史をもつ城下町であり、津軽地域の政治経済・文化の中心都市として発展しています。明治に軍都、大正からは学都としても栄えました。1889（明治 22）年に日本で市制が施行され、全国の 30 都市と一緒に最初に市となった都市です。産業は日本一の生産量をほこるりんごの栽培。全国の約 25% を弘前市単独で生産しており、基幹産業になっています。また春のさくらまつり、夏のねぷたまつり、といった四季を体感できる祭り、弘前城をはじめとする歴史的建造物が市内に数多く点在し、豊富な観光資源を有する観光都市でもあり、現在は多くの外国人観光客にもお越しいただいています。

「ハレ」と「ケ」というにぎやかな部分と静かな部分、「ハレ」のときが祭りですが、現在、日常の「ケ」の生活文化を観光客は欲しています。そのため、例えば市民らが通常食べているものを食べてみたいというニーズに対応できるよう紹介しています。

コロナ禍というピンチを乗り切る方程式

対策を取る目的は何かを明確にすることを中心に取り組んできました。まず取り組んだのが弘前公園に全国から多くの人が集うさくらまつりです。これには市民の方々の受け止めを中心に考え、祭りを中止しました。それだけではなく、弘前公園自体も閉鎖しました。対策は、さまざまな方の理解を得るように取っていかなければなりません。このコロナの感染を拡大させないというのは一人ひとりの意識の問題が大きいのです。まさに、市民力を活かした形で対策を取って乗り越えていくようにしました。市民の方がわかりやすく行動に移しやすいように、具体的に何をしてくださいということを伝えて取り組みました。大事なのは情報をしっかりと集めて具体的に誰が何に困っているかについてタイムリーな対策をとることです。

困難に直面したとき、リーダーとしての資質とは

目的に向かってぶれない強い精神力と判断力が重要になってきます。そのためには日ごろから情報収集をしっかりと行い、さまざまな方とのネットワークを広げていき、その関係性をどれだけ築いていたかによって、情報の入り方もかわります。そこが重要だと考えます。

弘前感交劇場～異文化の融合～

弘前市には、江戸時代に建てられた天守が現存している弘前公園があり、関東以北で現存しているのは弘前だけです。また三重の濠も含めて築城当時の形状がほぼそのまま残っているのは、全国に例がありません。明治時代になっていち早く洋風文化が入ってきて、明治大正期の洋風建築、昭和に入ってからは近代建築の巨匠である前川國男の建物（市役所他）があり、藩政時代から近代までの歴史的建造物を活かしています。現在、これらの建物を宿泊施設にできないか検討しています。例えば、日本商工会議所の初代会頭（商工会議所法施行後）である藤田謙一の別邸、藤田記念庭園です。夜はライトアップをして一組限定の空間をつくり、今まで弘前を訪れていない富裕層といわれる方々にも対応できるようにしたいと考えています。

和と洋が調和した町。混在しているけれど市民の生活の中では調和し、その日常が観光客にとっては初めての異文化体験となります。弘前感交劇場の始まりです。

健康都市弘前としての地域連携とプロモーション

人口減少・少子高齢化の中では、弘前市は健康医療の観点に強みがあり、健康都市弘前の実現に向けて各種施策を進めています。①市民一人ひとりが長く元気に生き生きと活躍する「ひとの健康」。②健康医療関連産業の誘致などにより雇用の場が確保され、所得も向上する「まちの健康」。弘前大学には医学部があり、中核病院として弘前総合医療センターも開院しています。開業医の数も多く、これらを強みにしています。日本一の短命県である青森県で、ひとの健康はもちろんのこと、まち自体の経済活動の活発化に気概をもって取り組んでいます。③地域づくりや地域産業の担い手が育ち、未来を担う多様な人材が活躍する「みらいの健康」。当市の活力の維持向上に向け、これからの地域を担う人材育成が重要です。子どもたちの健康意識を高めつつ、地域への愛着や誇りを育みながら次の時代を担うひとづくりにも取り組んでおり、ひと・まち・みらいの３つの健康の実現を目指しています。

また、2023（令和５）年５月に「SDGs 未来都市」に青森県で初めて選定されました。併せて、特に先導的な取り組みとして毎年度 10 都市が選定される「自治体 SDGs モデル事業」にも、北東北３県で初めて選定されました。当市の取り組みは、りんご産業の持続的な発展を目指し、経済、社会、環境の３側面から、農作業の省力化・効率化や環境負荷の低減に取り組むもので、その結果、さまざまな果樹産業へ波及していくことも期待しています。

さらに、弘前単体では難しいこともあるので広域連携をし、津軽地域 14 市町村で地域連携観光 DMO を立ち上げて情報を発信しています。現在、「津軽たんげ」ブランド（たんげとは津軽弁で「とても」「すごい」という意味）で土産品の包装紙を揃えて売り出しています。

そして、世界自然遺産の白神山地が昨年 12 月に登録 30 周年を迎え、1 月 17 日には、日本の世界自然遺産の登録５地域の連携会議が京都で開催され、５地域まとまって大阪・関西万博で情報発信をすることに決まりました。

人を振り向かせるには

いかに自分を磨くか、自治体が磨き上げられていくか、だと思います。そこに暮らしている一人ひとりが「思いやり」の気持ちを常にもてるかが大変重要だと考えています。「思いやり」とは自分がされたいこと、そしてされたくないことは人にもしないことです。困ったときには、ありがとうという言葉を発するとその場はおさまるのではないでしょうか。苦しくなったときには敵対するのではなく、思いやりをもってありがとうと言える、そのことをいつも心にもっておけば難しい問題も乗り越えていけるのではないでしょうか。

著者プロフィール

櫻田 宏（さくらだ ひろし）
1983（昭和 58）年に弘前市役所に採用後、経営戦略部理事、観光振興部長などを歴任。2018（平成 30）年４月に弘前市長に初当選し、現在２期目。「健康都市弘前」の実現を掲げ、ひと・まち・みらいの健康に向けた各事業を進めているほか、弘前ねぷたを活用したプロモーション活動など観光を切り口にした施策も展開している。

温故知新の精神に基づく酒造り

新政酒造株式会社
代表取締役社長
佐藤 祐輔

伝統発酵文化の継承「新政酒造」

新政酒造は 1852 年の創業以来、伝統に深く根ざした酒造りを守り続けています。

当蔵の誇りは、90 年以上前に自社で発見された古い清酒用酵母「きょうかい６号」を使った純米造りにあり、江戸時代に確立された無添加の「生酛」製法も採用しています。48 本の木桶を所有し、全ての酒をこれらの桶で醸すことも私たちの大きな誇りの一つです。さらに、秋田市の外れにある鵜養地区では、30 町歩以上の圃場で無農薬栽培を推進しています。

新政酒造は、日本の伝統発酵文化を守り、育て、次の世代に継承していくことに尽力しています。

©堀清英

キーワードは「伝統」の経営哲学

帰郷したのが 2007（平成 19）年ですが、ほとんどの中堅酒蔵会社は経営があまりよくなく、私どもの蔵も非常に厳しい状態でした。蔵には入ったものの、酒造り自体ができなくなるのではないかという状況で、かなりの赤字が出ていました。これは業界の構造的な問題であり、誰かを責めてどうなる問題でもないことでした。なんとかしなければと思いましたが、こうすれば会社が復活できるという方程式はありませんでした。最後は開き直って、世の中にとって大事な取り組みとは何かを自問自答し、たとえ倒産したとしても何かにつながると信じて邁進しました。

今までの酒造りにおいて、添加物が入っていたり、古い製法を無視して先端技術ばかりを追いかけたりすることは伝統産業としてどうなのだろうかと疑問を抱きました。そこにフォーカスして、自分なりのアイデアを世の中に提言していこうと考えました。それにより賛同して応援してくれる人が増え、首の皮一枚つながりました。

一般的によい酒を造ろうと思ったら新しい技術や先端の機械などに走りがちですが、我々は加工産業的なところではなく、伝統産業的なところに強くフォーカスしたのです。そういう意味では一般的な酒造りの在り方とは進む方向が逆に見られたかもしれません。ただし昔ながらのやり方がすべてよいということではなく、どの部分が日本酒としての伝統で、なくなってしまったら日本酒とは言えないのかを検証しながら一から酒造りの在り方を定義していきました。

困難＝成長のチャンス

困難は短期的にとらえると大変なストレスですが、あとから考えると困難自体に救われたこともあります。今年みたいに米がよくない年はときどきありますが、そのたびに飛躍的に技術が向上してよい酒となり、結果的にその年はダメであっても、その翌年、または翌々年に花開くことが普通にありました。

何事も思い通りにいってしまったら人生はつまらないものです。主人公が主人公であるためには、困難がつきもの、それが自分の人生のストーリーであるから甘んじて受け入れてしっかり対応していこうと決めています。困難に直面してもむしろ楽しんで、徐々にそれがストレスだと思わなくなってきます。今も酒造りを楽しんでいます。

Ｖ字回復の道のりは“こだわり”にあり

最初に取り組んだのが曾祖父のときに発見された六号酵母だけで酒を造ることです。それから純米酒だけにしよう、秋田県の米だけで造ろう、添加物を使わない製法にしよう、最終的には木桶で仕込もうと考え、コツコツとやっていたら徐々に業績が回復していきました。何か一つのきっかけではなく、伝統的な酒造りの道筋の階段を一歩一歩上っていったような感じです。ふり返ると、特に純米酒しか造らなくなったときに黒字となったことから、それが一つの大きな転機でした。

本来の伝統的な日本酒の姿とは何かということを追求して、純米に完全に切り替えたときに、おいしさだけではない価値、それをお客さんに伝える分岐点となりました。そこから我々の蔵の酒は、メッセージ性が強くなっていきました。

今後の活動やビジョン

今年の春、木桶を作る工房が蔵の敷地内に完成します。そして春以降稼働すると、木桶のほか酒造道具が作れるようになります。特に木桶は、これからの日本酒造りにとっては重要になると確信しています。必要とされる蔵には、できるだけ提供できるよう生産体制を整えていきたいと思っています。

農業に関しては、段階的に無農薬の田んぼが広がっていく予定です。現在、我々の蔵の無農薬米比率は約 30％ですが、継続的に増やし、最終的には全量無農薬を目指しています。

人を振り向かせるには……

派手なことをしようと思ってナンバー６などを造ったわけではありません。物事というのは本質と本質でない部分の二つで構成されていると思うのです。本質的な部分に関しては徹底的に追求しますが、そうでない部分については自由にやろうという考え方です。例えば伝統産業としての日本酒の本質とは何かという問いをしたとき、「伝統的な技術による酒造りをしているのか？」という答えが導き出されます。そこを一番大切にしています。昔からの日本酒造りの技術が途切れずに続いているのか、ピュアな原料のお米で造っているのか、そこは大事にして追求しますが、どんな瓶に入れるか、どんな名前か、どんなデザインか、どんな味か、それは本質ではないと思うのです。

©相場慎吾

今の若い人たちが素直に飲めるものであればよいということから自由にやっています。すると人が振り向いてくれて、本質的な部分とそうでない部分を区切って行うことにより本質が生きながらえることになると確信したのです。そういうことは、誰しも自分の仕事に共通すると思います。教育の本質は何かということを考えると、自ずと答えが導き出されるでしょう。そこで解き放たれた部分が自由になることによって新しいアイデアや取り組みが生まれてくる気がします。

著者プロフィール

© 船橋陽馬
（根子写真館）

佐藤 祐輔（さとう ゆうすけ）
新政酒造株式会社　代表取締役社長

1974（昭和 49）年生まれ。東京大学 文学部英語英米文学科卒業後、ジャーナリストとして活動。2007 年に家業である嘉永５年（1852）創業の酒蔵「新政酒造」に入社。自然の生態系、農業、醸造の有機的なつながりを求め「秋田県産米を、生酛・純米造り・木桶仕込みにより、当蔵発祥の六号酵母によって醸す」という哲学のもと、本来の日本酒の姿を求めてさまざまなチャレンジを続けている 。

クローズアップ！ 教育の現場

脈科学を生かした授業改善による不登校対策の取り組み

東京都国立市立国立第二中学校　校長　黒田 宏一

いじめ・不登校の予防対策としての授業改善

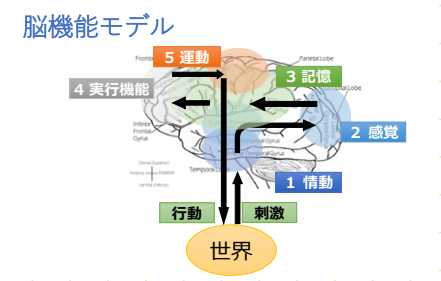
本校は、かつて不登校生徒出現率が最大８％までになり、学校の抱える大きな課題でした。これまでの不登校対策の多くが「不登校後の対策」であり、「学校風土がよければ不登校やいじめが少なくなるという欧米の研究での予防対策のエビデンス」を知り、「学校風土尺度調査」を実施しました。結果は「安全・安心」「教えと学び」「生徒同士等の関係性」「環境」の尺度の中で最も低評価だったのが学習であり、「学習意欲向上が自己肯定感を高め、不登校リスクを下げる」と仮説を立て、授業改善を柱にその対策に取り組むことにしました。

授業改善を科学的に捉える

「科学的」とは、再現性があることであり、そのエビデンスがあることです。そこで教育を科学的に研究し、「学校風土尺度調査」を開発された（公社）子どもの発達科学研究所に、授業改善のための疫学統計学・脳科学（脳機能モデル）・行動科学の三つの科学を提示していただきました。

①疫学統計学：１～３次の行動支援（予防・初期対応・個別介入）のうち予防に力を入れ、そのためにはスキル（認知スキルと非認知スキル）を学ぶことである。

②脳科学（脳機能モデル）：複雑な脳の働きをモデル化して考える。刺激（情報）は、まず情動・感覚を通過するが、「楽しい」「何故？」等の情動が働かないと情報が脳に到達せず学習に向かわない。情報統合と実行機能を意識することが大切である。



★情報統合→多種多様な情報をコンパクトにまとめること

★実行機能→行動（学び）の目的や手順を脳に残し、次々に行動を起こすための脳の働き

③行動科学：行動は勝手に生起せず、必ずきっかけ（先行条件）があり、その行動によって結果を得る。授業に当てはめると、行動（学び）を増やすために、きっかけ（先行条件）と結果（評価）をどうすればよいか（どうしたいか）を考えることが大切である。

そこで、授業に具体的に次の手法を取り入れました。

◎「個で考え、集団で共有・議論し、再び個で深める」という思考プロセスを活用した授業を取り入れる→実行機能、非認知スキル

◎ねらい・学習の流れ・まとめを掲示し、授業の目的・手順等を脳に記憶させ、学びを活性化→実行機能

◎ IT 機器や適切なシンキングツールを活用する→実行機能

◎発問・指示等を工夫し、学びの活性化のための情報をコンパクトにまとめ提示する→先行条件、情報統合

◎話型や話し合いのルールを示し、集団討論等に活用する→非認知スキル、実行機能　等

何が変わったか、その成果と課題

不登校を減らすための授業改善を通して、自己表現できる安心感を抱きながら学びに向かう生徒の姿勢（意欲）に変容が見られ、教師も手ごたえを感じています。不登校生徒の出現率も減少しましたが、ゼロではないので生徒の学びたいとの願いにこたえられるよう、今後もわかる授業・できたと実感のもてる授業を創り出す努力を重ねてまいります。

著者プロフィール

黒田 宏一（くろだ こういち）

1985（昭和 60）年、東京都の中学校数学科教員として採用。町田市、稲城市、多摩市の教諭や主幹教諭を経て、2008（平成 20）年に副校長として国立市に着任。12 年 4 月に国立市立小学校に校長として着任。14 年 4 月から中学校長として勤務し、18 年に国立市立国立第二中学校に赴任し、現在に至る。

アンケートのお願い

右の二次元コードより回答いただいた方には、ご希望の機関誌の最新号をお届けします。

教育情報 No.24、

日文 教授用資料
令和 6 年（2024 年）4 月 30 日発行

編集・発行人　佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33707

日本文教出版株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大 阪 本 社　〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261　FAX：06-6606-5171

東 京 本 社　〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL：03-3389-4611　FAX：03-3389-4618

九 州 支 社　〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL：092-531-7696　FAX：092-521-3938

東 海 支 社　〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F·B
TEL：052-979-7260　FAX：052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL：011-764-1201　FAX：011-764-0690